



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race TOYOTA GAZOO RACING
86/BRZ RACE (Professional Class) Rd.6/7
Date 2016.10.01-02
Race Track TOKACHI SPEEDWAY
Team OTG MOTOR SPORTS
Car OTG DL 86



占有走行は 13 位、レース 1 の予選は 19 位、決勝 12 位で終える。

今回の舞台は、北の大地北海道にある十勝スピードウェイになります。そして九州オートポリスでキャンセルとなったレースも十勝で代替えとして開催されるため、土日に 1 レースずつ行われる 2 レース制のイベントとなりました。

2016.09.29-30 FREE PRACTICE (占有走行 13 位 / 28 台中) WEATHER : WET/DRY

この十勝スピードウェイで 86 レースは毎年開催されていますが、私にとっては 2008 年ぶりのレースとなるので、木曜日からの走行でコースを思い出すところからスタートとなります。

しかし、走行初日はあいにくのウェットコンディション。週末の天候が崩れる可能性もあったため、積極的に周回を重ねコースやウェットコンディションでのラインを探ります。

金曜日になり、この日は朝からドライコンディションで走れたので、ドライでのセッティングなどを確認しながら周回していきました。2 本目の走行では早速予選シミュレーションを行います。通常通りニュータイヤと熱入れを行ったタイヤの比較を行った結果、予選を想定したアタックではニュータイヤの方がタイムは良く、この専有走行は 13 番手で終えることとなりました。

午後からは専有でのポジションも良くなかったため、予選に向けたセッティング変更更に時間を費やします。最後のセッションでは決勝に向けたロングランを行い、レース後半のペースダウンを防ぐセッティングを探しながら全ての練習走行を終えることとなりました。



2016.10.01 QUALIFYING/FINAL (公式予選 19 位 / 決勝 12 位) WEATHER : DRY

土曜日に入り北海道とは思えないような暑さの中、第 6 戦の公式予選がスタートしました。この予選は前日のテスト結果からニュータイヤでの走行を選択し、計測 1 周目にタイムを出せるようアタックを開始しました。

しかし、前日感じていたようなグリップ感はなく、この大事な 1 周目に 2 ヶ所のコーナーで脱輪してしまい、うまくまとめるが出来ません。再度翌周にアタックを行ったのですが、大きなタイムアップも出ず、19 位という結果で予選を終えることになってしまいました。

午後に入ると、短いインターバルでレーススタートの時間を迎えます。前回の富士ラウンドでペナルティーを受けた選手が多かったため、13 番グリッドに繰り上がりスタートすることになりました。

そして迎えた第 6 戦では、スタートのタイミングはバッチリ決まったのですが、そこからホイールスピンも多く、ポジションを保ったまま 14 週の決勝が進んでいきます。

スタートから 2 周目まではグリップ感があり前の選手に仕掛けていたのですが、そこからは急激にタイヤがタレ始め、前の争いについて行くことが出来なくなります。ラップタイムもロングランのテストに比べて明らかに遅く、苦しい走りだったのですが、どうにかポジションは保ったまま 12 位で第 6 戦のチェッカー受けました。



SPONSORS



PARTNERS





HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



レース2の予選は14位、決勝はトラブル発生で25位で終える。

2016.10.02 QUALIFYING/FINAL (公式予選14位 / 決勝25位) WEATHER: DRY

シーズン初の2レース制のため日曜日朝から予選が行われたのですが、この日は前日より暑くなるのが予想されます。

そのためレース後半のペースダウンを少しでも防ぐ目的で、ニュータイヤではなくユーズドタイヤで予選、決勝を走り切ることになりました。ユーズドタイヤのメリットとしては、予選のような一発の速さは出しにくいですが、レースのようなロングランを行った場合のタイムの落ち込みが少ないので、レース重視の選択と言えます。

予選がスタートし、前日同様1周目からアタックを行います。しかしアタックをしていたラップの最終コーナーで他車がクラッシュ、その横を通過しながらタイムを残してしまいました。

最終コーナーが黄旗区間に入るか不安だったため、一度ピットでタイヤ、マシンをクールダウンし、予選時間の最後に再度アタックを行います。

その結果1周目のベストラップは更新できませんでしたが、1アタック目とほぼ同等なタイムを記録することができ、午後からのレースは14番グリッドからスタートすることになりました。

午後に入り10月の北海道とは思えないような気温、路面温度の中、第7戦がスタートしていきます。

今回のスタートもまずまずで、ポジションキープのまま1コーナーへ進入していきます。しかし、2周目の混戦で後続車の強引なアタックで接触されコースアウトした結果、一気に6つもポジションを落としてしまい20位まで後退してしまいます。

ここからはひとつでもポジションを取り戻すため、全力で前のマシンを追います。1台ずつオーバーテイクし追いつけていた11周目、前のマシンに仕掛けようとした瞬間、ガタンという音とともに左フロントタイヤが外れコースアウト、そのままグラベルにスタックしレースを続行することが出来なくなりました。

2周目に接触された際、ホイールを止めていたナットが飛んでしまい、最終的に5本全てのナットが飛んでタイヤが外れてしまったことが原因でした。

チェッカーまで残り2周だったため完走扱いにはなりませんが、今シーズン初めてチェッカーを受けることが出来ませんでした。シーズンを考えると今回の2レースはとても重要なレースだったので、この2レースをノーポイントで終えたことは本当に苦しい状況になります。

これで残りは最終戦の鈴鹿を残すのみとなります。鈴鹿が一番走り慣れているサーキットなので今年の集大成に出来るよう、そして優勝争いを出来るように頑張りたいと思います。それでは引き続き、ご指導ご支援よろしくお願い申し上げます。

 吉田 広樹



SPONSORS



PARTNERS

